

安全データシート

改訂日:2025年1月8日

1. 製品及び会社情報

製品名
推奨用途
会社名
住所
電話番号

炭酸ナトリウム(無水)
試験研究用
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
DA0101

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類
健康に対する有害性

急性毒性(吸入:粉塵):区分4
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分3(気道刺激性、麻酔作用)

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
吸入すると有害
重篤な眼の損傷
呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ

注意書き

【安全対策】
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを避けること。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
【応急措置】
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。
【保管】
容器を密閉し、涼しく換気の良いところで保管すること。
施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物、容器を国又は都道府県の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名
別名
化学式
化学物質を特定できる一般的な番号
成分及び含有量
官報公示整理番号(化審法、安衛法)
その他

化学物質
炭酸ナトリウム(無水)
ソーダ灰
 Na_2CO_3
CAS RN:497-19-8
炭酸ナトリウム99%以上
(1)-164/公表
HSコード:2836.20

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

水と石鹼で洗うこと。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

気分が悪い時は医師の診断／手当をうけること。

予測できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
〔吸入〕咳、咽頭痛。
〔皮膚〕発赤。

[眼]発赤、痛み。
[経口摂取]腹痛、灼熱感。

5. 火災時の措置

適切な消火剤
使ってはならない消火剤
特有の危険有害性

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
該当情報なし。
不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び毒性の煙霧を発生するおそれがある。
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

特有の消火方法
消火を行う者の保護

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

全ての着火源を取り除く。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。
密閉された場所に立入る前に換気する。
環境中に放出してはならない。
漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。
水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。
プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

環境に対する注意事項
封じ込め及び浄化の方法及び機材

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
技術的対策(局所排気、全体換気等)

『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
眼に入れないこと。
飲み込みを避けること。
皮膚との接触を避けること。
酸、マグネシウム、五酸化りん
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後は手などをよく洗うこと。

安全取扱注意事項

接触回避
衛生対策

保管
安全な保管条件

本品は吸湿性がある。
容器を密閉して冷乾所にて保存すること。
施錠して保管すること。
酸から離しておくこと。
酸化剤から離して保管する。
ガラス、ポリエチレン

容器包装材料

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度
許容濃度
日本産業衛生学会
ACGIH
濃度基準値

未設定

未設定
未設定

8時間：未設定
短時間：未設定

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸器の保護具
手の保護具
目の保護具
皮膚及び身体の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。
適切な保護手袋を着用すること。
適切な眼の保護具を着用すること。
適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態
色
臭い
融点/凝固点
沸点又は初留点及び沸点範囲
可燃性

結晶性粉末
白色
無臭
856℃
1600℃
不燃性

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし。
引火点	不燃性
自然発火温度	該当情報なし。
分解温度	400℃以上
pH	強アルカリ性。11.37(1%,25℃),11.58(5%,25℃),11.7(10%,25℃)
動粘性率(粘度)	該当情報なし。
溶解度	30.7g/100g(25℃ 水) エタノール・アセトンに不溶。グリセリンに可溶。
n-オクタノール/水分配係数	logP=-6.19
蒸気圧	9.92×10^{-9} mmHg(25℃)
密度及び/又は相対密度	2.53g/cm ³ , 2.25g/cm ³ (一水和物)、1.46g/cm ³ (十水和物)
相対ガス密度	該当情報なし。
粒子特性	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	水溶液は中程度の強さの塩基である。 酸と激しく反応する。 マグネシウム、五酸化リンと反応し、爆発の危険をもたらす。 高温多湿を避ける。 酸、マグネシウム、五酸化りん
避けるべき条件	該当情報なし。
混触危険物質	
危険有害な分解生成物	
11. 有害性情報	
急性毒性	経口 : ラット LD ₅₀ 4090mg/kg 経皮 : ウサギLD ₅₀ > 2000mg/kg 吸入 : ラットLC ₅₀ (4時間換算)1.2 mg/L
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ウサギ皮膚に4あるいは24時間適用した試験で紅斑および浮腫ともスコアは0、刺激性なし(not irritating)の結果(SIDS(access on July 2008))が得られ、さらにヒトのパッチテストでも4時間適用により紅斑および浮腫ともスコアは0、刺激性なし(not irritating)の結果(SIDS(access on July 2008))が得られていることに基づく。なお、ウサギおよびヒトとも損傷皮膚に適用した場合には一次刺激性指数は2以上となり若干の刺激性が報告されている(SIDS(access on July 2008), ECETOC No.66(1995))。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ウサギを用いた試験において、「刺激性なし(not irritating)」～「強い刺激性(highly irritating)」と相反する結果(SIDS(access on July 2008))が出ている。その中の一つの試験で、非洗浄眼の場合全例に角膜、虹彩、結膜(発赤、浮腫)に症状が発生し、14日の観察期間終了時も症状が残り、ドレイズの最大スコア平均(MMTS)が105と報告されている。 また、別の試験の非洗浄眼では、ばく露後1時間で角膜混濁を生じ重度の影響が7日まで持続し、ドレイズの平均評点が角膜で3.8、虹彩で2であり、一部の動物で角膜パンススおよび円錐角膜を起こしていた。以上の結果は重篤で不可逆的眼損傷性を示しており、区分1に該当する。 なお、pH = 11.58 (5 wt% aqueous sol. at 25℃)(HSDB (2003))である。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器 : 該当情報なし。(分類できない) 皮膚 : ヒトにおいて本物質のパッチテストにより陽性反応がみられたとの報告が複数ある(NITE初期リスク評価書(2008))。一方、モルモットを用いた皮膚感作性試験では陰性であったとの報告がある(SIDS(2010))。ヒトにおいて陽性の報告が複数あることから区分1とした。
生殖細胞変異原性	該当情報なし。(分類できない)
発がん性	該当情報なし。(分類できない)
生殖毒性	ラット、マウスおよびウサギのそれぞれ器官形成期に経口投与した試験でいずれも母体への毒性および催奇形性を含め発生毒性は認められていない(SIDS(access on July 2008))が、親動物の性機能、生殖能に対する影響に関してデータはなく分類できない。
特定標的臓器毒性(単回暴露)	ラット、マウスおよびモルモットを用いた試験において、吸入ばく露直後に呼吸障害を起こし、呼吸困難、および喘鳴音が認められ、3-4時間後に治まった(SIDS(access on July 2008))との記載より区分3(気道刺激性)とした。 一方、ラットに経口投与後の症状として運動失調、虚脱、し眠が記述され、生存例では5日目までに症状が消失している(SIDS(access on July 2008))。また、経皮投与後24時間の間にし眠が観察されたが死亡の発生はなかったと記載されている(SIDS(access on July 2008))。したがって症状には回復性があり、区分3(麻酔作用)とした。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	該当情報なし。(分類できない)
誤えん有害性	該当情報なし。(分類できない)
12. 環境影響情報	
生態毒性	短期 : 甲殻類(ミジンコ)での48h-EC50=250mg/L(SIDS 2002)であることから、 (急性) 区分外とした

残留性・分解性	長期: (慢性)	難水溶性ではなく(水溶解度＝5307mg/L、PHYSPROP Database 2008)、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。
生体蓄積性		データなし
土壌中の移動性		データなし
オゾン層への有害性		データなし
		当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。(分類できない)
13. 廃棄上の注意		
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報		産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意		
国連番号		—
品名(国連輸送名)		—
国連分類		—
容器等級		—
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策		食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
国内規制がある場合の規制情報		
陸上輸送		消防法の規定に従う。
海上輸送		船舶安全法の規定に従う。
航空輸送		航空法の規定に従う。
応急措置指針番号		—
15. 適用法令		
化学物質管理促進法(PRTR法)		指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法		毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法		名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(第57条及び施行令18条、第57条の2及び施行令18条の2)[炭酸ナトリウム](2025年(令和7年4月1日)以降) 危険性又は有害性を調査すべき物[炭酸ナトリウム](2025年(令和7年4月1日)以降) 皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質(規則594条の2)[炭酸ナトリウム] 危険物に該当しない。 有害液体物質(2類物質)(施行令別表第1)
消防法		
海洋汚染防止法		
16. その他の情報		
参考文献		NITE-CHRIIP(製品評価技術基盤機構HP) 17423の化学商品(化学工業日報社) 職場のあんぜんサイト(厚労省HP)

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。